

大火と

復興の歴史

「まさか四度の大火が発生するとは——過去三回の苦い経験をした私たち市民は、だれしもそう思ったに違いありません」これは、四十三年十一月号の書き出しです。

市の歴史を振り返るとき、やはり四度の大火(年表参照)とその復興は忘れることができません。大火は、思い出したくない出来事。かもしれませんが、決して忘れてはならない歴史のページなのです。

四十三年十一月号は、「私たちはこの四度目を最後に、大火の歴史に終止符をうたなければならぬ」と結んでいます。



▶山田敬蔵選手のポストンマラソン優勝を祝し市内をパレード

数多くのスポーツ大会を開催

これまでの広報をひもとくと、明るく楽しい話題もたくさん載っています。その中からスポーツの話題を拾ってみました。何といっても、最初に挙げられるものは、二十八年の「山田敬蔵選手優勝」でしょう。山田さんの快挙は戦後の混乱期にあった市民に、やる気と勇気を与えてくれました。

キリヨネン、イモネン、この二人も忘れることはできません。そうです。三十三年の国際スキージャンプ大会に米市したフィンランドの選手です。このとき、二人の勇姿を一目見ようと長根山ジャンツェへ詰めかけた人は、なんと六万人といえますから、当時の市民の熱狂ぶりがかがえます。市民が「主役」となった大会もあります。二十八年の冬季国体スキー大会、三十六年の秋田国体、五十九年は秋田インターハイ、そして六十年の全県中学校総体がそれです。スポーツ関係者はもちろん、婦人会や小・高・高校生がひとり一役運動を

展開。「成功は市民総参加のたまもの」(三十六年十二月号)——この見出しが全てを物語っているのではないのでしょうか。市体育協会会長の浅野福造さん(有浦四丁目・七十歳)は、これらの大会を全てみてこられた一人です。コメントをいただきました。



浅野さん

「大館ではこれまで、数多くの大会が開かれています。それらの中で『一番印象に残るものは?』と聞かれたら『六十年に開かれた全県中学校総体』とこたえるでしょう。なぜなら、それまで秋田市でしか開催されていなかったこの大会を、大館市民みんなの熱意と努力で誘致できたからです。全県中学校総体の新しい歴史の始まり、と言ってもよい出来事でした。これからもいろいろな大会誘致のため、市民の皆さんに頑張ってくださいたいと思います。大会が開催されることで、市民のスポーツ意識が高まるでしょうし、地域経済の活性化にもつながります。しかし、そのためには、やはり大型体育館が必要となります。一日も早い建設をお願いしたいと思います。」

1	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	48
年11月	年3月	年3月	年1月	年6月	年8月	年3月	年3月	年3月	年11月	年7月	年1月	年4月	年3月
・大館西道路着工	・公共下水道事業工事がスタート	・「小さな親切」実践都市を宣言	・中央公民館完成	・「日中友好親善の集い」開催	・秋田県中学校総合体育大会開催	・中央図書館完成	・市の花に「キク」を指定	・環境浄化都市を宣言	・第1回大館市産業祭開催	・長根山野球場オープン	・松木鋳業所閉山	・松峰町内集団移転完了	・国道7号大館バイパス有浦・市役所間開通



再建されたハチ公銅像(左)と里帰りしたハチ公(はく製)が対面



長根山展望台から運動公園を望む